

■2018年笠ヶ岳植生調査の報告

群馬側担当理事 小鮎 守
理事 大山昌克

定点植生調査を継続している笠ヶ岳は、標高 2056m、至仏山の南側に位置する山です。

鳩待峠から至仏山に向かい、オヤマ沢田代から分岐した山道を進み、悪沢岳、小笠を経由して調査地点まで約 5 時間の道のり（往復 14Km）であり、またアップダウンが続く尾瀬の中ではかなりタフなコースです。

経路する至仏山東面道から悪沢岳、笠ヶ岳間は 7 月上旬まで残雪があり、ぬかるみ状態のため慎重な歩行を余儀なくされます。ハイカーには敬遠される道のため、人とすれ違うことは滅多にない山道です。

2018 年は 7 名の指導員とともに 2ヶ所の定点調査地①小笠南面（標高 1950m）②笠ヶ岳東肩（標高 2000m）に向かうため早朝 7 時に行動を開始しました。

調査に必要な道具は、デジカメ、野帳（雑多な記録用のノート）、筆記用具、調査票、方形区法（コドラート法）調査のメジャー、昼食、水、ライト、応急処置用の医薬品などです。

○調査地 2ヶ所

・小笠南面（標高 1950m）：岩盤が大きく傾斜は笠ヶ岳東肩より緩く安定した地点です。昨年との違いは、植物が大きく育ち高密度の調査地点となっていました。今年の雪解けは例年並みでしたが、植生の繁茂状態は記録的な暑さが続いたためと考えられます。

・笠ヶ岳東肩（標高 2000m）：山頂直下の斜面であり、登山道の上部法面から表層土壌の下方移動が激しく、一部の登山道が埋まってしまうほど土壌が流動している調査地点です。

○調査方法

1m×1mの方形区法（コドラート法）を用いて植生の種数を調べます。被度（数量）や植生種名から優占種を求め、その種の特徴や環境条件、土壌条件との関係を考えることを目的としています。また過去データと比較しながら、土壌流動や植生の遷移についても検討材料にします。

○2018年調査

—確認された植生種数—

調査地は斜度30～45度の法面であり、積雪層全体がグライドすると想定される箇所です。表層土壌の下方移動が極めて激しい個所ですが、例年14～18種の植生が確認されている雪田植生地です。2018年は小笠南面18種、笠ヶ岳東肩で16種確認しました。

調査地点	生息本数	種数	科-属
小笠南面	490	18種	15科-18属
笠ヶ岳東肩	362	16種	13科-16属

—優占種（上位3種）—

2018年調査では小笠南面、笠ヶ岳東肩で確認された植生数の上位3種は、まったく同種でした。

- ・小笠南面（上位3種で65.7%）

	種名	%
1位	キンコウカ	32.7
2位	ヒメノガリヤス	24.5
3位	イワイチョウ	8.6

- ・笠ヶ岳東肩（上位3種で74%）

	種名	%
1位	キンコウカ	49.7
2位	ヒメノガリヤス	13.3
3位	イワイチョウ	11.7

—2018年新たに確認された植生種—

過去5回の調査で確認できた植生種は平均小笠南面では16種、笠ヶ岳東肩14種でした。2018年に生息本数は少量ながら、新たにそれぞれ2種ずつが確認されました。

調査地点	種名	数量
小笠南面	マルバウスゴ	1
	ヒメスギラン	1
笠ヶ岳東肩	ムラサキタカネアオヤギソウ	5
	ミヤマトウキ	2

○過去データと比較した検証

①2つの調査枠内(1m×1m)で確認された植生は、「1属-1種」であり、同属の2種以上で生息した植生はなかった。

②2つの調査地点の優占種上位にあったコイワカガミ(イワウメ科-イワカガミ属)の数量が経年減少している。

③小笠南面の最優占種は、2年連続キンコウカ(キンコウ科-キンコウカ属)であり、占有率は33%であった。2017年より確認されたキンコウカは、それ以前の4回の調査では未確認(ゼロ)であった。

④笠ヶ岳東肩の最優占種は、3年連続キンコウカ(キンコウ科-キンコウカ属)であり、占有率は約50%であった。過去には少数ながら確認されていたが、小笠調査点と同じく2017年より爆発的に増加している。

⑤笠ヶ岳東肩のタテヤマリンドウ(リンドウ科-リンドウ属)は、2015年以降未確認(ゼロ)が続いている。

⑥優占種の上位5種が占める割合は、小笠南面77%、笠ヶ岳東肩では84%であった。例年と同じく数種による寡占状態となっている。

ブナの樹木の成り年、不なり年と同じく、多くの植物にも程度の差はあれ「豊凶」があり、興味深い植物の個性や生活史ともいえま

す。尾瀬に隣接するものの、国立公園の外側に位置していますが、最も「尾瀬らしい」箇所と言えるところです。それは、継続調査(1m×1mの定点)で、確認できた植生種は累計小笠南面32種、笠ヶ岳東肩39種におよびます(6回の調査累計)。尾瀬同様に極めて多様性の高い雪田植生群落です。この笠ヶ岳全体も尾瀬国立公園内に含め、次世代に残すべきエリアと改めて感じます。

小笠南面調査中

撮影2018/8/11



ベニヒカゲが乱舞(準絶滅危惧種)開張 45mm



チョウ目タテハチョウ科

撮影2018/8/11

※なお更新、追加された調査データは、紙面の都合上割愛しますが、当会HP上に登録しますのでご覧ください。

<http://www.oze-net.com/>

2018笠ヶ岳植生調査

2018/8/11実施-群馬側

■確認された種 No.1笠ヶ岳-東肩(標高2000m)

No	種名(五十音順)	数量	和名(漢字)	科	属
1	イワイチョウ	40	岩銀杏	ミツガシワ科	イワイチョウ属
2	イワオトギリ	16	岩弟切	オトギリソウ科	オトギリソウ属
3	イワショウブ	4	岩菖蒲	チシマゼキショウ科	イワショウブ属
4	エゾシオガマ	1	蝦夷塩竈	ハマウツボ科	シオガマギク属
5	キンコウカ	180	金光花	キンコウカ科	キンコウカ属
6	ジョウシュウオニアザミ	3	上州鬼蓆	キク科	アザミ属
7	チシマササ	13	千鳥笹	イネ科	ササ属
8	チングルマ	20	種児車	バラ科	チングルマ属
9	ニッコウキスゲ	13	日光黄菅	ススキノキ科	ワスレグサ属
10	ハクサンイチゲ	5	白山一華	キンボウゲ科	イチリンソウ属
11	ハナニガナ	1	花苦菜	キク科	ニガナ属
12	ヒメシャクナゲ	1	姫石楠花	ツツジ科	ヒメシャクナゲ属
13	ヒメノガリヤス	48	姫野刈安	イネ科	ノガリヤス属
14	ミネウスユキソウ	10	嶺南雪草	キク科	ウスユキソウ属
15	ミヤマトウキ※	2	深山当帰	セリ科	シシウド属
16	ムラサキタカネアオヤギソウ※	5	紫高嶺青柳草	シュロソウ科	シュロソウ属
	種/総数量	362本		キク科3種、イネ科2種 など	
	各回で確認された 平均species(平均17.8)	16種		13科	16属

薄黄色=2018年に新確認された種

■確認された種 No.2小笠ヶ岳-南面(標高1950m)

No	種名(五十音順)	数量	和名(漢字)	科	属
1	イワイチョウ	42	岩銀杏	ミツガシワ科	イワイチョウ属
2	イワオトギリ	2	岩弟切	オトギリソウ科	オトギリソウ属
3	イワショウブ	8	岩菖蒲	チシマゼキショウ科	イワショウブ属
4	ウラジロヨウラク	8	裏白瑠瑠	ツツジ科	ヨウラクツツジ属
5	エゾシオガマ	2	蝦夷塩竈	ハマウツボ科	シオガマギク属
6	キンコウカ	160	金光花	キンコウカ科	キンコウカ属
7	コイワカガミ	21	小岩鏡	イワウメ科	イワカガミ属
8	コバイケイソウ	2	小梅苣草	シュロソウ科	シュロソウ属
9	タテヤマリンドウ	5	立山竜胆	リンドウ科	リンドウ属
10	チシマササ	21	千鳥笹	イネ科	ササ属
11	チングルマ	32	種児車	バラ科	チングルマ属
12	ネバリノギラン	4	粘り苣蘭	キンコウカ科	ソクシンラン属
13	ハクサンイチゲ	24	白山一華	キンボウゲ科	イチリンソウ属
14	ヒメシャクナゲ	11	姫石楠花	ツツジ科	ヒメシャクナゲ属
15	ヒメスギラン※	1	姫杉蘭	ヒカゲノカズラ科	コスギラン属
16	ヒメノガリヤス	120	姫野刈安	イネ科	ノガリヤス属
17	マルバウスゴ※	1	丸葉白子	ツツジ科	スノキ属
18	モウセンゴケ	26	毛氈苔	モウセンゴケ科	モウセンゴケ属
	種/総数量	490本		ツツジ科3種、キンコウ カ科2種など	
	各回で確認された 平均species(平均13.6)	18種		15科	18属

調査参加者(7名)

伊藤(ア)、大山、小鮎、坂本、須賀、中島、長島

「黄色※」は、調査開始以来、初めて確認されたもの

■笠ヶ岳植生調査-優占種(2010~2018)

2018笠ヶ岳植生調査(群馬側) 薄黄色=2018データ

■小笠南面(標高1950m)【定点/1mコドラート法】

※尾瀬沼1660m

回号	実施日	優占種(上位5)										全植物数		上位5種 占有率	上位3種 占有率	尾瀬沼 最大積雪	尾瀬沼 消雪日
		①	%	②	%	③	%	④	%	⑤	%	種数	個数	%	%	cm	日
第1回	2010/9/11	①チングルマ60	32.8%	②コイワカガミ56	30.6%	③イワショウブ19	10.4%	④ヒメノガリヤス18	9.8%	⑤ハナニガナ17	9.3%	全植生数	183	92.9%	73.8%	269	5月31日
第2回	2011/8/6	①コイワカガミ140	28.5%	②ヒメノガリヤス139	28.3%	③チングルマ57	11.6%	④ハナニガナ40	8.1%	⑤モウセンゴケ32	6.5%	全植生数	492	82.9%	68.3%	274	5月26日
第3回	2013/8/10	①コイワカガミ148	32.6%	②モウセンゴケ85	18.7%	③チングルマ76	16.7%	④イワショウブ39	8.6%	⑤ハナニガナ18	4.0%	全植生数	454	80.6%	68.1%	267	5月22日
第4回	2015/7/12	①チングルマ170	29.1%	②コイワカガミ137	23.5%	③モウセンゴケ87	14.9%	④バイカオーレン83	14.2%	⑤イワイチヨウ56	10.4%	全植生数	584	91.3%	67.5%	344	5月21日
第5回	2017/8/11	①キンコウカ400	34.9%	②モウセンゴケ250	21.8%	③バイカオーレン180	15.7%	④コイワカガミ108	9.4%	⑤チングルマ60	5.2%	全植生数	1145	87.2%	72.5%	287	5月24日
第6回	2018/8/11	①キンコウカ160	32.6%	②ヒメノガリヤス120	24.5%	③イワイチヨウ42	8.6%	④チングルマ32	6.5%	⑤モウセンゴケ26	5.3%	全植生数	490	77.6%	65.7%	252	5月22日

■笠ヶ岳東肩(標高2000m)【定点/1mコドラート法】

回号	実施日	優占種(上位5)										全植物数		上位5種 占有率	上位3種 占有率	尾瀬沼 最大積雪	尾瀬沼 消雪日
		①	%	②	%	③	%	④	%	⑤	%	種数	個数	%	%	cm	日
第1回	2010/9/11	①イワイチヨウ66	31.7%	②キンコウカ28	13.5%	③チングルマ18	8.7%	④コイワカガミ17	8.2%	⑤ハナニガナ17	8.2%	全植生数	208	70.2%	53.8%	269	5月31日
第2回	2011/8/6	①コイワカガミ113	23.1%	②ヒメノガリヤス94	19.2%	③イワイチヨウ88	18.0%	④チングルマ60	12.3%	⑤キンコウカ35	7.2%	全植生数	489	79.8%	60.3%	274	5月26日
第3回	2013/8/10	①ヒメノガリヤス118	22.5%	②コイワカガミ87	16.6%	③タテヤマリンドウ80	15.2%	④モウセンゴケ62	11.8%	⑤イワイチヨウ60	11.4%	全植生数	525	77.5%	54.3%	267	5月22日
第4回	2015/7/12	①キンコウカ77	30.3%	②チングルマ39	15.4%	③タカネニガナ30	11.8%	④ハクサンイチゲ30	11.8%	⑤ニッコウキスゲ13	5.1%	全植生数	254	74.4%	57.5%	344	5月21日
第5回	2017/8/11	①キンコウカ240	48.2%	②ハナニガナ81	16.3%	③イワイチヨウ41	8.2%	④ミヤマダイモンジソウ34	6.8%	⑤ニッコウキスゲ26	5.2%	全植生数	498	84.7%	72.6%	287	5月24日
第6回	2018/8/11	①キンコウカ180	49.7%	②ヒメノガリヤス48	13.3%	③イワイチヨウ40	11.0%	④チングルマ20	5.5%	⑤イワオトギリ16	4.4%	全植生数	362	83.9%	74.0%	252	5月22日